

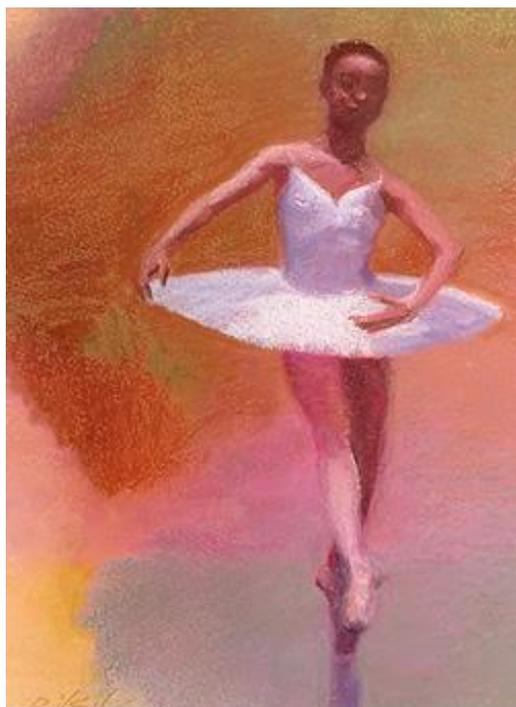
『パステル画・水彩画・色鉛筆画』  
洋画家 りきやす先生

『食わず嫌いをせずにまずは一步・・・』

色々なお話を、楽しく聞かせてくださるりきやす先生のスタートは思いがけず挫折からだったそう。「絵だけは負けない!」、そう思っていた高校一年生の秋、同級生に負けた悔しさが今の道を切り開くきっかけに。とても意外な、でもとても身近に感じられるエピソードです。

美大に進まれて以降、長きに渡り彫刻の道を歩まれてきた先生が抽象画を経て、今の具象画の世界へ本格的に踏み込まれたのは、シルクロードを旅された時。ご一緒された立松和平さんの言葉が転機になったそう。抽象画では表現できない相対する物、目で観て比較できる物への興味が湧き、風景画を描き始められました。

その後、様々な題材を描く中で行き着いた人物画。人物を描く時はリアリティを一番大切にされています。その一つ、バレリーナを描くために5年前から始められたバレエ。「人の本当の美しさ」を追求し、筋肉の動き一つ一つを大切にされます。あと5年続けて10年を迎えた時、一つの作品を完成させるそう。すでにタイトルも決まっており、こっそり教えていただいたが5年後のお楽しみです。



そんな先生の指導方法は、受講者さんの作品には決して手は出さないこと。自発的に描きたいものを引きだし、誰もが抱える心の内を作品によって外へ放出すること。そうしてできた作品は「自分らしさ」の結晶なるとおっしゃいます。「それができる教室にしたいな。」とにっこり笑われる先生からみなさんへ。

「絵に興味のある人はもちろん、一步前へ踏み出したいけれど躊躇している人。『食わず嫌い』をせずに、自分探しのためにぜひ始めてみて下さい。」何事もご自身の経験を大切にされる、りきやす先生らしいお言葉です。思いもよらない新しい「自分」を発見してみませんか。